

6. 『宮古木工芸』の取組み

実施テーマ	宮古島の照葉木を使った食器の販路開拓及び販売拡大
地域名	宮古島


(1) 対象商品とその特徴

1) 対象商品

Teriha 八角汁椀	
	
規格	約 120×120×65mm
販売価格 (税抜)	8,800 円
卸売価格 (税抜)	5,280 円

Teriha 八角飯椀	
	
規格	約 110×110×65mm
販売価格 (税抜)	8,600 円
卸売価格 (税抜)	5,160 円

Teriha 八角かつぶ	
	
規格	約 85×85×85mm
販売価格 (税抜)	7,000 円
卸売価格 (税抜)	4,200 円

Teriha ひら皿	
	
規格	約 240×110×25mm
販売価格 (税抜)	6,000 円
卸売価格 (税抜)	3,600 円

Teriha 八角おはし	
	
規格	約 230×95mm
販売価格 (税抜)	2,500 円
卸売価格 (税抜)	1,500 円

2) ブランド概要

同社は1961年に宮古島で創業し、国の伝統的工芸品に指定されている「三線」、沖縄県産の原木を原料とした「一枚板テーブル」、「木工家具」、「木工芸品」等の製造・販売を行ってきた。「Teriha」は同社が手掛ける宮古島産の照葉木(テリハボク)で制作するテーブルウェアブランドである。照葉木は鮮やかで綺麗な木目と雨水にも強い木質から、古来より御拝所で使用する神聖な食器の素材として宮古島の人々に重宝されてきた。その想いを受け継いだ

「Teriha」のテーブルウェアは、優美でスタイリッシュなデザインと細微にわたる機能性が特徴である。

3) ターゲットする市場

- ・日本最大の消費地である東京を含む首都圏

(2) 活動報告

1) 講師招聘（リモートによる勉強会）《指導回数2時間を計10回》

Terihaブランドの再構築等を行うため、株式会社アルヴォリの萩島貴氏（代表取締役）によるリモート勉強会を開催した。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ Terihaブランドの再構築・価格設定・ 既存のバリエーションを増やす・ 他社の動向や食器作りや販売のノウハウを学ぶ・ 販路拡大により認知度と売上げの向上 |
|--|

《ブランドの根っことなる「物語」》

Terihaブランドにさらなるストーリー性を持たせるため、宮古島の文化や御嶽等について学んだ。

<会議資料の要旨>


- ・ 宮古の文化は八重山ほど南方地域に繋がらず、首里の文化の影響も受けていない、独自の文化が最も強烈に温存されている。神への願い、沖縄は自然（コントロール不可なもの）に対し、本土は商売繁盛や健康、学業など自分のことを願っている。
- ・ クリスマスやハロウィン等、他の国から伝承されてきた文化を日本でアレンジしているものもあり、これらは表面的になりがちである。
- ・ 御嶽は古代性。ルーツが解き明かされていない。根本。本質的。
- ・ 人工のものが神を遠ざける。できる限りの自然体、自然素材。
- ・ 木々が茂り森となすときそこに神が訪れる。
- ・ 照葉で器を作ることが御嶽の文化を守る（大皿、小皿）ことに繋がる。
- ・ 古神道：外来宗教の影響を受ける以前に存在していた。太古の昔から自然発生的に生まれた。

成果と気付き
<ul style="list-style-type: none">・ 文化について学べたことは非常に勉強になったが、一方で、どこまで商品に反映するべきかなど、難しいなと感じた面もある。・ 直接的（形など）に御嶽に繋げるというよりも、背景ストーリーのような奥行きを持たせるために、御嶽を学んで反映させていきたい。

《他社の製品調査》

価格とサイズ、塗装、製作方法の比較を行った。

ブランド	商品名	木材	価格	画像	備考
宮古 木工芸	Teriha 八角わん (大)	照葉木 ウレタン +オイル	7,750 (8,800)		直径12cm×高さ6.5cm 重さ:約88g 満水容量:約350ml
	Teriha 八角わん (小)	照葉木 ウレタン +オイル	7,750 (8,800)		直径11cm×高さ6.5cm 重さ:約94g 満水容量:約200ml
aeru	山中漆器 ボウル (小)	榉 拭き漆	7,200		離乳食を始めたばかりの「ゴックン期」にはボウルを 口径 約11cm 高さ 約4.5cm 重さ 約70g 大中小3点セット=22,400円
	山中漆器 深皿 (中)	榉 拭き漆	7,600		深皿は「モグモグ期」「カミカミ期」にピッタリ 口径 約13cm 高さ 約4cm 重さ 約100g
	山中漆器 平皿 (大)	榉 拭き漆	8,100		たくさん食べるようになったら、平皿を 口径 約15cm 高さ 約3.5cm 重さ 約100g
	川連漆器 ボウル (小)	ぶな 花塗り	9,800		離乳食を始めたばかりの「ゴックン期」にはボウルを 口径 約11cm 高さ 約4.5cm 重さ 約70g 大中小3点セット=33,800円
	川連漆器 深皿 (中)	ぶな 花塗り	11,500		深皿は「モグモグ期」「カミカミ期」にピッタリ 口径 約13cm 高さ 約4cm 重さ 約100g
	川連漆器 平皿 (大)	ぶな 花塗り	13,000		たくさん食べるようになったら、平皿を 口径 約15cm 高さ 約3.5cm 重さ 約100g
横浜 ウッド	ナツメ椀	ナツメ 拭き漆 中国製	2,300		直径11.8cm×高さ6.8cm 重さ:約80g 満水容量:約360ml
	ケヤキ椀	ケヤキ 拭き漆 中国製	3,300		直径11cm×高さ6.8cm 重さ:約74g 満水容量:約307ml
	ナツメ こども椀	ナツメ 拭き漆 中国製	2,200		直径10cm×高さ5.8cm 重さ:約120g 満水容量:約205ml
	ナツメ 食育セット	ナツメ 拭き漆 中国製	5,800		A.直径11cm 高さ1.9cm 約48g 満水容量:A.約65ml B.直径9.8cm 高さ4.5cm 約56g 満水容量:B.約198ml C.直径11.8cm 高さ5.6cm 約120g 満水容量:C.約296ml 補足:Aが蓋兼皿、Bが内部器、Cが外部器
菌部産業	めいぼく椀 小	さくら ウレタン	3,300		サイズ: Ø10.5x 高さ6cm 重さ:164g 満水容量:320ml
	めいぼく椀 中	さくら ウレタン	3,800		サイズ: Ø11.5x 高さ6.8cm 重さ:不明 満水容量:不明
	めいぼく椀 大	さくら ウレタン	4,500		サイズ: Ø13x 高さ7.4cm 重さ:不明 満水容量:不明
	めいぼく椀 中	なら 拭き漆	4,500		サイズ: Ø11.5x 高さ6.8cm 重さ:不明 満水容量:不明

ブランド	商品名	木材	価格	画像	備考
OSK	子ども用 プラ お椀	樹脂	500 円前 後		直径 10cm×高さ 5cm 重さ:約 56g 満水容量:約 260ml
無名	子ども用 プラ お椀	樹脂	不明		直径 10.5cm×高さ 6.4cm 重さ:約 65g 満水容量:約 300ml

成果と気付き

【お椀ブランドの方向性について】

- ・目指すべきブランド像もオーガニックを意識した高級な自然派をイメージしているので、ナチュラルな質感やノミでひと手間加えるなど、そういった雰囲気も今後のラインナップにぜひ取り入れられたらと思う。

【Teriha の塗装について】

- ・他社の塗装と比べた時、とても手間が掛かるが理にかなった塗装方法になっており競合他社との差別化に大きく影響することが分かった。

《ユーザーアンケート調査》

子どもとの食卓での様子、悩み、食器に対する考えなど

インタビュー実施

【人数】12名

【期間】6月3日～10日

【内容】

- ・家族構成 ・職業
- ・食事は子どもと一緒に食べているか？ ・食事の流れ、いただきますからごちそうさままで
- ・食事で注意、意識していること ・食事中にストレス感じること、なぜ
- ・こぼす、食器を落とすことにストレスを感じることはないか ・ストレス要因を解決するための工夫は？
- ・何が一番痛みがあるか、それぞれ10段階で ・子どもに食事中に学んでほしいこと
- ・子どもとの食事で得たいこと ・現実と理想のギャップはあるか？ その阻害要因は何か？

■ 食器について

- ・和食と洋食の割合 ・どんな食器を使っているか、こだわりはあるか？
- ・いくらぐらいで購入？ もらった？ ・それを選んだ基準は
- ・食器で困っているもの ・こぼさなくて済むならこぼさないで欲しい？
- ・どんな食器をよくこぼすか ・こぼしやすい食器の種類は
- ・自分の食器はこだわりある？ ・本当は子どもにもこだわりの食器を使わせたい？
- ・形状、持ちやすいすくいやすい形状に加工されたもの、それとも大人と同じ形状で慣れて欲しいか？



ペルソナ

■ 伝統工芸が好き

年齢：37歳 女 既婚
出身：神奈川県
趣味：外食、買い物、旅行
職業：会社員（時短勤務）
生活：



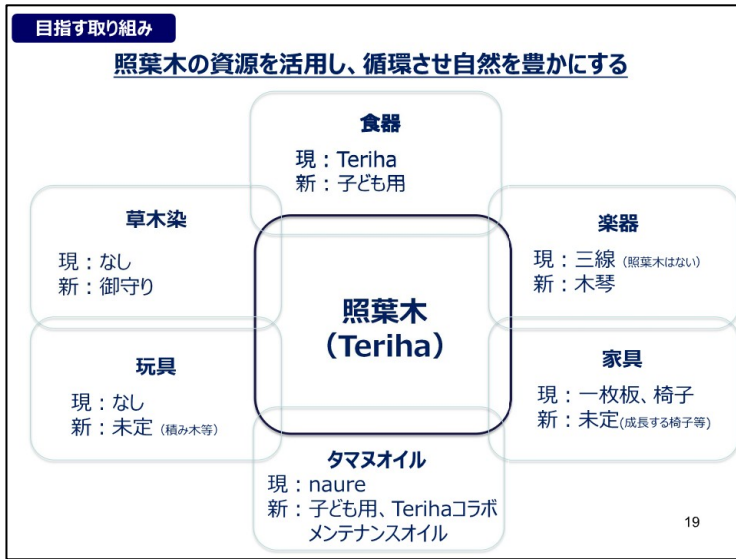
共働き、2歳の娘、企業勤め。収入は安定している。
時短で上がるため、平日は娘と毎日夕食をとっている。
家族3人でご飯食べるのは週末のみ。

食事のこだわり：

栄養バランスを考えてできる限り作ったものを出したい。
食事のマナーに気を付けて食べて欲しい。

《デザイン》

アンケートを基に今後の方向性やブランドイメージに合った子ども椀



Type1

Type2



Type4

Type5

数値目標：利益35万円/月

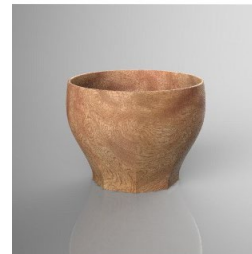
商品展開案	アイテム	売価	SKU	販売数	売上
三線取り扱い	Teriha現行	6,580円	5		
一枚板テーブル	お椀新製品	8,000円	1	100個	800,000円
	楽器新製品	10,000円	1		
	御守り新製品	8,000円	1		
	タマヌオイル	4,550円	2		

2020年ロードマップ案

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
お椀新製品	デザイン	モニター	製作	販売開始			
楽器新製品	デザイン	試作	実験	製作	販売開始		
御守り新製品	デザイン	試作	製作	販売開始			
Teriha現行品	発信	販売開始	ラインナップ整理				
タマヌオイル関連	交渉商談	仕様検討	試作	製作	販売開始		
				現行品販売			



Type3



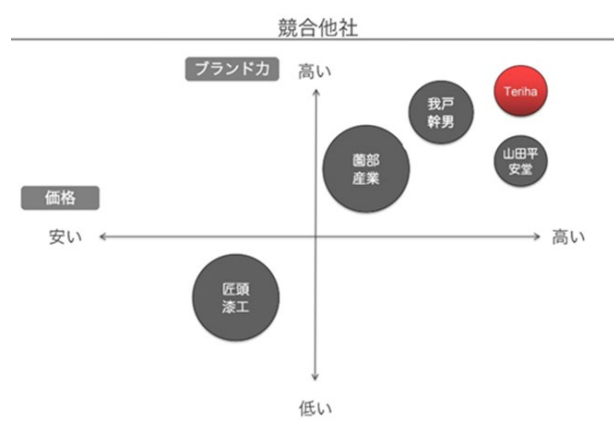
Type6

成果と気付き

- ・子ども向け食器デザインは、胴体の下の部分まで八角の形状にしてしまうとトゲトゲしさが出てしまうため、持ちやすさだけでなく、口当たりの良さ、倒れにくさなどを考慮したデザインとし、胴体の下の部分を丸にした形状も製作することとした。
- ・離島マーケティング事業の成果目標について
 - あるべき姿：Teriha の販売を強化するための販促活動とラインナップ強化
 - 成果目標：○Teriha の商談、百貨店催事⇒コロナ禍で商談、催事困難
 - 子供向け Teriha のラインナップ強化：BtoC 商材としての子ども向け食器⇒今後の展望として持ちやすいお椀に加えて、スプーン、お皿、丸椀も検討する。
 - 化粧品メーカー向け Teriha 活用提案：BtoB 商材として化粧品容器提案⇒商談は難しい見通しだが東京出張時に KOSE 訪問できるよう調整する

《価格設定》

Teriha が宮古島という特別な産地の希少な原料で製造されることに加え、製品のストーリー性を打ち出し、さらにデザイン性や加工技術を高めることでより高価な価格設定を行うこととした。



¥7,750(税抜) → ¥12,000(税抜)

2) 視察研修

他社の取り組みと商材内容検討、デザインの勉強と Teriha の販路開拓を行うため、視察研修を行った。



石巻工房



デザイン



b8ta



成果と気付き

【石巻工房】

- ・主に木工に関する専門的な技術がなくても釘打ちやビス留めで製作できるものを主力商品にしており、長方形の連なりがシンプルで美しく見えるようなデザインに統一している。
- ・誰にでもマネ出来そうなDIYのビス留めだが、実はそのビス金具にこだわっており、簡単にグラつかない造りになっている。レッドシダーの良い特徴を生かした商品づくりを行っているため、傷つきやすいといったデメリットが気にならない。

【b8ta】

- ・様々な分野の最先端商品が並んであり、驚くほどわからないものもあるが、手に届くような手軽な身近な商品もあった。最先端の新商品に触れさせ、体験させ、体感していただき、本当に欲しいか必要か試すことが出来る。



青山スクエア



生産地 動向



小田原工芸
技術センター



成果と気付き

【青山スクエア】

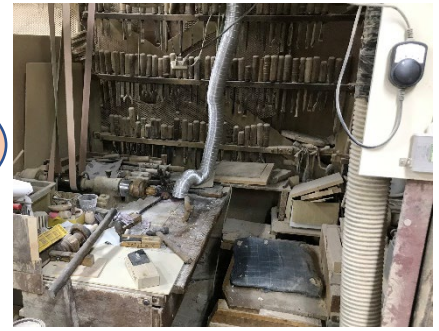
- ・全国の工芸品が出品されていた。製作された商品を見ると材料として使用されている木材が杉、檜、樺、栃、桐等に限定されていた。このような品ぞろえの中にテリハボクが並べば非常に目を引く商品となるのは間違いないと確信した。

【小田原工芸技術センター】

- ・昔は、お椀などの商品は工場で大規模生産をしていたが、それでは使える木やデザインが限られるため、現在では個人で轆轤（ろくろ）を持ち加工している事業者が増えている。個人での製作になるので少量でこだわりのお椀を作る事業者が多い。
- ・小田原では昔から木工小物や玩具造りが盛んで、効率的に同じものを大量に作るといった技術に長けている事業者が多い。
- ・1階では木工機械の時間制による貸し出しをしており、個人では機械を持たずにここへきて加工する事業者も多い。轆轤（ろくろ）技術の指導やCAD図面の製作などのサポートも充実している。
- ・2階には塗装ブースがありここでも事業者には時間制でブースの貸し出し・指導もしている。塗装や研磨のコツなどを指導していただいた。
- ・3階には資料館があり1970年代から現代までの木工小物の歴史や作られていたものが年代別に展示されており、小物作りが盛んでありそれが現代へと受け継がれていく流れが分かった。



おくや物産



価格設定
ポジショニング



成果と気付き

【おくや物産】

- ・主に受注生産をメインに木工小物を製作している。お椀から玩具、ペットの仏壇まで様々な製品造りに精通している技術がすごい。やはりここでもいかに効率的に作れるかを重視している。一回の注文でどれだけ大量に効率的に作れるかを重視していることが感じ取れた。
- ・作業は分業制で、それぞれの加工場にそれぞれの職人が付き、同じ工程をこなすことで技術を高め、効率を上げる取り組みをしている。また、製作する商品によっては一部を外注しており、無理して製作するといった商品に対する変なこだわりは持たず、割り切って製作している。

3) 子ども向け椀の試作

3Dプリンターで試作を作成後、再度ユーザーアンケートを実施した。その結果、上位2個のデザインを子ども向けお椀とすることに決定した。

口元の八角形から下部の丸型に向けてのくびれが特長の「八丸型」と将来轆轤（ろくろ）での中量生産を視野に「丸型」のみのデザインも取り入れた。



*口元の八角形から下部の丸型に向けてのくびれが特長の「八丸型」（写真右）と将来轆轤での中量生産を視野に「丸型」（写真左）のみのデザインも取り入れた。



機械構造上の理由で「くびれ」表現できないことが発覚！



手作業にて「くびれ」を再現できた。

